

ヴォリュームアキュライザーの活用(11)

—複数箇所への同時適用(8)—

—

1. 始めに

今回は、P&Gのユニットを組み込んだしなの音蔵オリジナルのフェーダーのヴォリューム調整ノブとLangvin 6V6ppのヴォリュームに適用してみます。

2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴方法

今回は、アナログ音源でVRA-7の効果を確認します。再生経路はヴォリュームアキュライザーの導入(16)のとおりです。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→
(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバ
ランスケーブル)→(AACU-1000)→しなの音蔵オリジナルフェーダー→(AACU-
1000)→(アンバランスケーブル)→Langvin 6V6pp

このフェーダーは、バランス入出力の端子しかありませんので、バランス/アンバ
ランス変換アダプターを使用します。

フェーダーのヴォリューム調整ノブへのVRA-7の貼り方は、ヴォリュームアキュラ
イザーの導入(16)のとおりです。また、Langvin 6V6p ヴォリュームへのVRA-7の貼
り方は、ヴォリュームアキュライザーの導入(19)のとおりです。

音源は、聴きなれた下記を使用しました。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

Angel (東芝 EMI) AA 9117・C

ゲオルグ・フドリッヒ・ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴結果

ZANDEN Model 120の設定条件は、これまでの経験での条件を適用しています。

バッハのソナタとパルティータでは、ヴォリュームアキュライザーの導入(16)とヴォリュームアキュライザーの導入(19)の効果が合わさった印象で、ミルシュテインのボウイングの様がリアルです。

選帝侯のソナタでは、これもヴォリュームアキュライザーの導入(16)とヴォリュームアキュライザーの導入(19)の効果が合わさった印象で、ケンプの打鍵が力強く、響きが豊かです。

ワルキューレでは、オーケストラの音が一層緻密になり、押し出しが効いてきますし、ソプラノとメゾソプラノの声が伸びやかです。

メサイアでは、シュワルツコップの声が伸びやかですし、合唱の分離が向上します。

4. まとめ

しなの音蔵オリジナルフェーダーのヴォリューム調整ノブと Langvin 6V6p ヴォリュームへの VRA-7 の適用により、アナログ再生において大きな効果を認めました。

以上